

公益財団法人青梅佐藤財団 ニューイヤーコンサート

椿三重奏団



ヴァイオリン
磯 絵里子



ピアノ
高橋 多佳子



チェロ
新倉 瞳

2026年 **1月10日(土)**

14:00開演(13:15開場)

入場無料/全席指定

羽村市生涯学習センター

**プリモホールゆとろぎ
大ホール**

【未就学児入場不可】

申込方法(おひとり様2枚まで)

11月4日(火)午前9時より受付開始

- プリモホールゆとろぎ窓口
座席選択可/車いす席取り扱い
- インターネット
(右記2次元コードより)
座席はお選びいただけません
チケットは当日引換となります。



プログラム

エルガー
愛のあいさつ

モノー
愛の讃歌

クライスラー
愛の喜び

リスト
愛の夢

シューベルト
アヴェ・マリア

ブラームス
ハンガリー舞曲 第6番

ブラームス
ピアノ三重奏曲第1番 口長調 作品8

＜お問い合わせ＞

公益財団法人青梅佐藤財団 090-5195-3030 プリモホールゆとろぎ 042-570-0707

主催:公益財団法人青梅佐藤財団

共催:羽村市教育委員会・青梅市教育委員会・NPO法人多摩の青少年を育てる会

協力:ゆとろぎ協働事業運営市民の会

プリモホールゆとろぎ開館20周年記念

感じる ゆとろぎ
つながる ゆとろぎ



椿三重奏団

(ピアノ：高橋多佳子/ヴァイオリン：磯絵里子/チェロ：新倉瞳)



日本を代表するソリスト・室内楽奏者として、活動続ける3人の出会いは2008年。高橋と磯の出演するトリオの演奏会に急遽参加することとなったのは当時まだ大学生であった新倉。演奏会後に3人は意気投合し、その後も折に触れて共演を重ね、レパートリーを拡大し、音楽を成熟させてきました。

2017年の愛知県・幸田町民会館つばきホールでのコンサート後に、トリオ名を付けて常設のピアノ三重奏としての活動を決意。椿が日本原産の樹木であり、18世紀にヨーロッパに渡り「東洋のバラ」と呼ばれ人気を博し、白い椿には「完璧な美しさ」という意味があり、日本人のアイデンティティーとして、2019年に「椿三重奏団」と命名されました。

2020年2月に初のCD「メンデルスゾーン/ブラームス：ピアノ三重奏曲第1番」(アールアンフィニ・レーベル)をリリース。その歳月を重ねたがゆえの熟成した3人のアンサンブルはエモーショナルでダイナミック、そして精緻との評価を受け、レコード芸術誌特選盤に選出されました。

2023年9月最新アルバム「偉大な芸術家の思い出に」をリリース、そのロシアの息吹を表出するチャイコフスキーとショスタコーヴィチの濃密な演奏は、まさに椿三重奏団ならではの白眉の名演です。

高橋 多佳子 たかはし たかこ ピアノ

桐朋学園大学卒業、国立ワルシャワ・ショパン音楽院研究科修了。第12回ショパン国際ピアノ・コンクール第5位、第6回ポルト市国際音楽コンクール第2位、第3回ラジヴィーウ国際ピアノ・コンクール第1位、第22回日本ショパン協会賞などを受賞。リサイタルやオーケストラ共演など活発な演奏活動続ける。既に25タイトルのCDをリリースし、多くが“レコード芸術誌特選盤”となる。2019年12月に《ショパンピアノ協奏曲第1番他》(オクタヴィアレコード)、2020年2月に《椿三重奏団メンデルスゾーン&ブラームス》(アールアンフィニ)と続けてリリースされ大きな話題となった。2015年刊行の《ショパンの本》(音楽之友社)ではDVDでのピアノ演奏を担当した。宮谷理香とのピアノ・デュオ「デュオ・グレイス」、磯絵里子(Vn.)、新倉瞳(Vc.)との「椿三重奏団」としても活動。《生で聴く「のだめカンタービレ」の音楽会》中心メンバー。ヨーロッパの著名な国際音楽祭への出演や、ポーランドの《青少年のためのショパン国際コンクール》、ロシアの《ラフマニノフ国際コンクール》に審査員として招聘されるなど国際的なキャリアも築いている。



磯 絵里子 いそ えりこ ヴァイオリン

桐朋学園大学卒業後、文化庁芸術家在外派遣研修員としてブリュッセル王立音楽院に留学し、修士課程大賞を受賞し首席修了。マリア・カナルス国際コンクールほか国内外のコンクールで入賞。ソリストとしてオーケストラとの共演、全国各地でのリュオ・プリマ「EnsembleΦ(ファイ)」「デュオ・パッシオーネ」「椿三重奏団」など室内楽でも多彩な演奏活動を展開。(一財)地域創造公共ホール活性化支援事業登録アーティスト、並びにソニー音楽財団「こどものためのクラシック」登録アーティストとしてアウトリーチ活動にも積極的に参加している。2010年よりFMヨコハマ「磯絵里子のSEASIDE CLASSIC」のパーソナリティを務める。デビュー以来12枚のCDをリリース。真摯な演奏への取り組み、確かな技量に基づいたヨーロッパ仕込みの洗練された感性には定評があり「気負いのないしなやかな活動ぶりが、クラシック音楽シーンで着実に存在感を放っている」など各媒体で高く評されている。

<https://erikoiso.jp/>



新倉 瞳 にいくら ひとみ チェロ

桐朋学園大学音楽学部を首席で卒業、皇居桃華楽堂新人演奏会に出演し御前演奏を行う。その後スイスへ渡り、バーゼル音楽院ソリストコース・教職課程の両修士課程を最高点で修了。これまでに毛利伯郎、堤剛、Thomas Demenga、Martin Zaller(バロック・チェロ)の各氏に師事。国内外での受賞歴も多数、近年では第18回ホテルオークラ音楽賞、第19回(2020年度)齋藤秀雄メモリアル基金賞チェロ部門受賞。桐朋学園大学在学中にはEMI Music JapanよりCDデビューを果たし、これまでにEMI Music Japanから3枚のアルバム、アールンフィニ・レーベルより、最新CD『11月の夜想曲』～新倉瞳委嘱作品集(世界初演初録音)を含む5枚のアルバムが発売されている。現在はCamerata Zürichのソロ首席チェリストとしてスイスを拠点に活躍中、ソリスト、室内楽奏者として全国各地でリサイタル、オーケストラとの共演を重ね、司会、番組ナレーション、音楽劇、演奏家のためのドレスM Maglie le cassettoのプロデュース等、活動の幅を広げ音楽の素晴らしさを広く深く伝えようとする姿勢は多くの共感を集めている。使用楽器は、宗次コレクションより貸与されたMatteo Goffriller(1710年製)。<https://www.hitominiikura.com>

